

郷土文化施設とネイチャーゲーム

福田和子

分野の今日的な概要

歴史を学ぶには、史跡、建造物、絵画、彫刻、工芸品など様々ある。その歴史を学ぶために、県、または市町村主催、施設（資料館・記念館等）主催で時々イベントが開催される。

分野を理解するキーワードとその説明

文化財：広義では、人類の文化的活動によって生み出された有形・無形の文化的所産のこと。「文化遺産」とほぼ同義である。

事例の概要

平成20年4月より郷土学習施設・人々の交流の場として阿知須「いぐらの館」がオープンした。施設職員・元担当者から、この施設と関連付けたネイチャーゲームを実施してほしいと依頼を受けた。

※いぐらの館（旧中川家住宅）：廻船業と居蔵に関する民俗資料の展示施設

事例の内容

●ねらい

文化的活動や文化財・歴史には、自然と共に暮らす先人たちの知恵がたくさん生きている。ネイチャーゲームとコラボレートすることで、より分かりやすく学ぶことができる。郷土文化施設から先人たちの暮らしの中の知恵を学び、ライフスタイルを見直すきっかけづくりと地域づくりをねらいとする。

●実施アクティビティ

- ①はじめまして ②カモフラージュ ③いぐらの館の不思議発見ラリー
④いぐらの館周辺散策 ⑤音いくつ ⑥わたしの暦

（市報にて募集：親子11名参加）

●参加者の反応

（子どもの反応）

- ・おもしろかった。
- ・旧暦カレンダーがほしくなった。（「わたしの暦」で使用した）
- ・また参加したい。
- ・まだ遊びたい。もう少し遊んでから帰る。

（親の反応）

- ・すごく満足感を感じた。
- ・定期的に「いぐらの館」で実施してほしい。
- ・四季おりおりの自然を感じてみたい。
- ・くつろぎながらできてよかった。
- ・阿知須（「いぐらの館」周辺）のよいところが発見でき、理解しやすくてよかった。
- ・地域を知って愛着がわいてきた。

分野におけるネイチャーゲーム実践のポイントと留意点

- ・担当者との打ち合わせを十分に行い、事業の目的に合ったプログラム作りをする。
- ・下見の際に、文化財の特徴や歴史について調査する。
- ・文化財（郷土文化施設）と聞くと堅苦しいイメージがあるが、興味深い場所、また訪れたい場所と思われるようなプログラムにする。

活動の評価

- ・活動を通して、文化財および街の歴史を知ってもらうことができた。
- ・風土に合った先人たちの暮らしを知ることで、自分たちのライフスタイルを見直してもらうきっかけづくりとなった。
- ・担当者からも、「参考になった」「また別の季節にもお願いしたい」と言っていただいた。

今後の課題

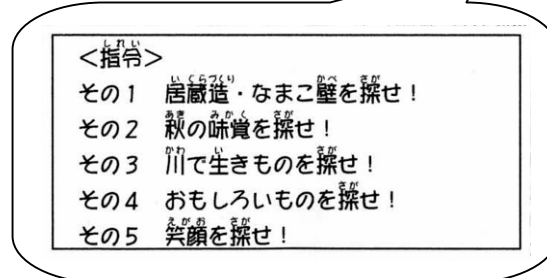
まだまだ「ネイチャーゲーム」の認知度が低く、広報で募集していただいても参加者数が少ないという状況。施設との連携をとり、継続的に実施して、ネイチャーゲームを通してもっと地域づくりへと展開したい。

写真、プログラムシート

いぐらの館の不思議発見ラリー		
	問題	答え
①	いぐらの館の敷地内には、いくつ井戸がある？	
②	鐘田地区に伝わる民話で、火事のお話のタイトルは？	
③	廻船は「真積み」から何積みに変わって来た？	
④	留守を守る女性は、板の間で何を飼っていた？	
⑤	この家は何造りといわれる？	
⑥	真積みでは何を運んでいた？	
⑦	阿知須浦の5つの地区が受け継いでいる祭は？	
⑧	四角形の平瓦を並べ自地に漆喰を塗りある形のように盛り上げた外壁を何という？	

2008年11月1日 いぐらの館ネイチャーゲーム体験
なまえ： _____

<いぐらの館の不思議発見ラリー>



<いぐらの館周辺散策>

分野を学ぶための参考資料

山口県：山口県の文化財 <http://bunkazai.ysn21.jp/>

その分野に関係する主要団体

山口県：山口県教育庁社会教育・文化財課